

柏高ニュース

第18号
平成26年12月22日
東大阪大学柏原高等学校

校長コラム - 学期末懇談会

18日から学期末懇談会でした。2学期の成績や行動について、担任・保護者・生徒本人の三者で実施しました。今学期を振り返り、よかった点、反省すべき点を示し、今後の学校生活を送る上での留意点を明らかになりましたね。特に成績が振るわなかった生徒、問題行動を起こし迷惑をかけた生徒諸君は、厳しく自己点検し、再出発のきっかけとしてもらいたいものです。冬季休業期間も生活リズムを整え、心身とも健康で新年をめでたく迎えてください。

12月、「師が走る」、師走(しわす)です。書店や文具店に、来年の手帳やカレンダーが山積みされ、季語の「師走」「歳末」ということばが、北風といっしょに身に添うようになってきました。みなさま、よいお年をお迎えください。1月6日(火)の始業式でお会いしましょう。

ニュースです！

* バドミントン部！ 常山幹太が快挙！

高校生の「全日本4強入り」19年ぶり！

全日本総合選手権大会

12月1日(月)～7日(日) 国立代々木競技場第二体育館

社会人、大学生が出場し、バドミントン日本一を争う大会に、常山・下農・小倉の3人が出場し、健闘しました。常山幹太は、高校生としてトップの4強入りを果たしました。下農走も予選を勝ち上がり、本戦の1回戦で、この大会の準優勝の桃田選手に敗れましたが、大健闘でした。小倉由嵩は2年生ながら、大会に出場しましたが、接戦でしたが予選で敗れました。翌日の新聞には常山幹太は、読売・毎日・朝日・東京・産経・日経の各紙で、写真入りで記事になっていました。高校生がこの大会で4強に入るのは、19年ぶりの快挙だそうです。6年後の東京五輪が視野に入ってきました。3人で、ロンドン五輪の川前先輩に続いてほしいものです。

<写真は、上が常山幹太、下が下農走。協会のHPから。>

出場選手

常山幹太(3年) <滋賀県草津中出身>
下農走(3年) <大東市大東中出身>
小倉由嵩(2年) <東京都小平二中出身>

男子シングルス 第3位 常山幹太

予選6枠 1回戦 小倉由嵩 1:2 玉手勝輝(埼玉栄) 予選敗退
予選1枠 1回戦 下農走 2:0 千京尚将(福井県教員)



予選1枠 2回戦 下農走 2:0 古財和輝(龍谷大学職員) 予選通過

- 1回戦 下農走 0:2 桃田賢斗(NTT東日本) 桃田選手は決勝戦に進出
- 1回戦 常山幹太 2:0 渡邊達哉(トナミ運輸) 常山幹太はシード選手
- 2回戦 常山幹太 2:1 竹村純(JR北海道)
- 準々決勝 常山幹太 2:1 内藤浩司(日立情報通信エンジニアリング)
- 準決勝 常山幹太 0:2 佐々木翔(トナミ運輸) 佐々木選手は優勝

男子ダブルス 第9位 下農走・常山幹太組

- 1回戦 下農走・常山幹太組 2:0 中里祐貴(早稲田大学)・五十嵐優(中央大学)組
- 2回戦 下農走・常山幹太組 0:2 早川賢一・遠藤大由(日本ユニシス)組
早川・遠藤組は優勝

バドミントン韓国ジュニアオープン

12月8日(月)~14日(日) 韓国 金泉市

- U 19 男子シングルス ベスト16 小倉由嵩(2年)<東京都小平二中出身>
- U 19 男子ダブルス 第3位 小倉由嵩
- 3回戦 小川(埼玉栄)・小倉(東大阪大学柏原) 2:0 タイチーム
- 準々決勝 小川(埼玉栄)・小倉(東大阪大学柏原) 2:1 ホンコンチャイナチーム
- 準決勝 小川(埼玉栄)・小倉(東大阪大学柏原) 0:2 韓国チーム

夏季ユース五輪で銀!!常山男子バドミントン初メダル狙う!!

2020 東京の五輪の星 関西発

東大阪大柏原高3年

男子バドミントン界のホープだ。東大阪大柏原高の常山幹太(3年)は、夏季ユース五輪(中国・南京)のバドミントン混合ダブルスで銀メダルを獲得した。まさかミックスで取れるとは思わなかった。世界ジュニアランキングに従い、台湾の女子選手と即席ペアを組み、シングルスで8強に終わった悔しさを晴らした。

現在はナショナルチームB代表に名を連ねる。男子高校生で代表に入っているのは、Aを含めても同じ高校でダブルスを組む下農走(3年)と2人だけ。2月7日の全日本総合選手権(東京)では、男子シングルスの高橋生として19年ぶりに4強入りした。結果には満足しているけど、(優勝した佐々木)翔さんについていけないかったと差を痛感したが、昨年のベスト8を上回った。

両親は元選手。父・兼一さんは日本電装で、母・美由紀さんは三洋電機でプレーした。兄の明良(あき)ら(さん)も三菱自動車京都に所属しているバドミントン一家だ。2012年ロンドン五輪男子ダブルス代表の川前直樹(NCT東日本)を育てた同校の明石道夫コーチは「試合での配球など、センスがすごい。高校時代の川前と比べても技術は上だと力説した。」

コート駆け回り、拾い続ける粘り強さが持ち味。卒業後は日本リーグの強豪・トナミ運輸で腕を磨く。「体(の強さ)が絶対的に必要。ケガが多かったため、徹底的に鍛え上げたい」と飛躍を誓った。2020年の東京五輪は24歳で迎える。その時は日本のトップに立っていられるようにしたい。男子バドミントンでは初のメダリストという夢を追いかける。

常山 幹太(つねやま かんた) 1996年6月21日、滋賀・草津市生まれ。18歳。6歳から卓球ジュニアでバドミントンを始める。2年時に高校総体の単、全国選抜大会の単と団体、JOCジュニア五輪カップの単複で優勝。アジアジュニア選手権は単2位、複3位。3年時に高校総体の複、国体(団体)で優勝。世界ジュニア選手権の単8強。170センチ、55キログラム。家族は両親と兄弟。

練習に励む東大阪大柏原高 常山幹太



<上の新聞記事は、12月15日(月)付の新聞「スポーツ報知」先日、学校に取材がありました。>

* スポーツチャンバラ部!

- 第16回 奈良県スポーツチャンバラ選手権大会 12月7日(日) 奈良県宇陀市体育館
- 1、2級 小太刀の部 第3位 野田侑暉(2年)<松原市第7中出身>